



INDEX

株主の皆さまへ To Our Shareholders 1.2

売上高
経常利益
当期純利益

連結事業の概況 Business Results ... 3.4

楽器事業
AV・IT事業
リビング事業
電子機器・電子金属事業
レクリエーション事業
その他の事業

特集 Special Topic 5.6

ヤマハホームシアター

トピックス Topics 7.8

新商品 New Products 9 ~ 12

クラビノーバ「CLP-F01」
クラビノーバ「CVPシリーズ」
ディスクラピア「マークⅣ」
アップライトピアノ「SU7」
バイオリン「Artida」
イーゼートランペット「EZ-TP」
システムキッチン「ドルチェ」
「ベリー」
アピテックス「マイルーム」
ゴルフクラブ「05 inpres」
はいむるぶし
合歓の郷

連結財務諸表 13.14

Consolidated Financial Statements

単独財務諸表 15

Non-consolidated Financial Statements

株式の状況 16

Stock Information

会社の概要 17

Corporate Outline

株主メモ 18

Shareholders Informaton

To Our Shareholders 株主の皆さまへ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
当社第181期(2004年4月1日から2005年3月31日まで)の営業の状況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、企業収益が改善し、民間設備投資も増加する中、個人消費も堅調に推移するなど、概ね緩やかな回復基調をたどりました。しかしながら、期の後半には、デジタル関連業種の在庫調整や石油価格の高騰などにより先行き不透明感が広がりました。海外では、アジア経済が成長を続けたのははじめ、米国経済が堅調に推移し、欧州経済も順調に回復してまいりました。

このような状況の中で当社グループは、中期経営計画「YSD50」(YSDはYAMAHA Sustainable Development(持続的な発展)の頭文字を指し、50は「500億円の利益水準+実質有利負債ゼロ」の目標を表すものです。)の目標実現に向けて諸施策を実施してまいりました。

楽器事業の収益力強化を最大のテーマとし、国内楽器市場の活性化を図るため、新しいコンセプトの音楽教室作りを進めるなど音楽普及・販売拠点投資を行い、集客型ビジネスモデルの構築に努めました。また、顧客に楽器の楽しさ、使い易さを提案する商品の開発を通して楽器人口の裾野拡大に努める一方、中高級品モデルの開発強化と市場開拓を進めました。高級モデル開発とアーティストサービス体制を強化するためHGピアノ統括室を新設したほか、著名アーティストとのタイアップによるマーケティング強化とより魅力的な楽器作りを目指しニューヨークにヤマハ アーティスト サービスズ社を設立し

ました。生産面では、中国におけるピアノ、ギター工場を立ち上げるなど海外生産拠点の整備に努めるとともに、製造改革を推進しコスト競争力の強化に努めました。新規事業の創出につきましては、サウンドライブ戦略推進室を設置し、音・音楽とサウンドネットワークの領域でさまざまな技術、事業の可能性について研究を重ねています。業務改革につきましては、上記製造改革に加え、SCMシステムの構築、スタッフ部門の効率化に努めました。企業の社会的責任を重視した経営姿勢を明確にするためCSR委員会を設置しました。また、ゼロエミッションを掲げるなど環境問題にも積極的に取り組みました。

販売の状況につきましては、楽器事業は売上げを伸ばしましたが、電子機器・電子金属事業が売上げ減少となりました。

以上により、当期の業績につきましては、売上高5,340億79百万円(前期比1.0%減少)となりました。

損益につきましては、電子機器事業の利益率低下により経常利益は413億2百万円(前期比19.1%減少)となりました。当期より固定資産の減損に係る会計基準を早期適用し327億3百万円の減損損失を計上し、また、厚生年金基金の代行返上益199億27百万円を計上したことから、当期純利益は196億97百万円(前期比54.8%減少)となりました。

当期の配当金につきましては、1株につき12円50銭(中間配当と合わせて年20円)とさせていただきます。

当社グループは、中期経営計画「YSD50」において、高水準の利益を



安定的に創出し、持続的な発展を可能とする経営構造の実現を目指し、下記の課題に取り組んでおります。

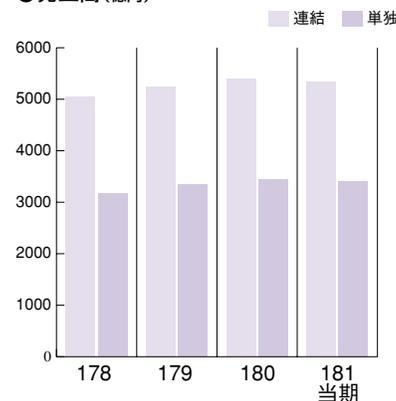
- (1) 持続的・安定的な高収益構造の確立。全ての事業の収益力を強化し、中でも楽器事業の収益性を大幅に高めることでグループ全体として安定的な高収益体質を構築します。
- (2) 独創的かつ高品質な商品開発/事業創出。各事業の中高級品市場に注力、ブランドポジションの優位性を高めると同時に、当社グループの総合力を活かした独創的な新規商品の開発及び新規事業創出により新たな需要を喚起します。
- (3) 企業の社会的責任を重視した経営。企業価値/ブランド価値の持続的な増大・発展を目指すために、経済面、環境面、社会面での求められる責任を果たすとともに、継続的改善のためのマネジメントシステムを整備します。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

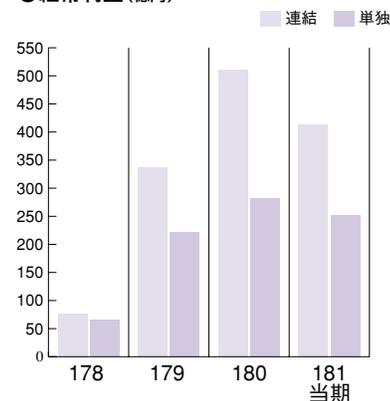
2005年6月
代表取締役社長

伊藤 修二

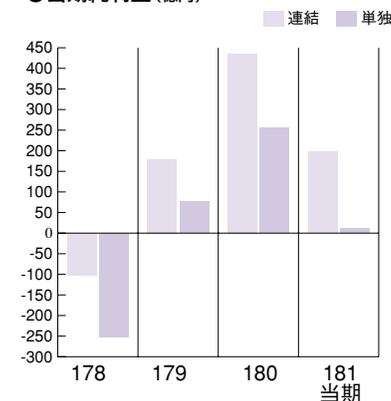
●売上高(億円)



●経常利益(億円)



●当期純利益(億円)



連結事業の概況

楽器事業

楽器は、国内市場が増収となったほか、北米市場も現地通貨ベースで増収となりましたが、大市場のドイツ、フランスが低迷した欧州市場は現地通貨ベースで前年並に止まりました。ピアノは、北米市場の不振、国内市場の総需要減少傾向により売上げ減少となりました。電子楽器は、エレクトーン「ステージア」が好調に売上げを伸ばしたほか、クラビノーバ、音響機器が伸長しましたが、ポータブルキーボード、シンセサイザーが売上げ減少となりました。その他の楽器では、ギターが国内市場の不振から売上げ減少となりました。

教室収入は、音楽教室では幼児・児童生徒数に下げ止まり感がでてきたことに加え、大人の音楽教室が順調に拡大しました。英語教室は、在籍数の増加により売上げを伸ばしました。

着信メロディー配信サービスは、海外市場が伸長し売上げ増加となりました。

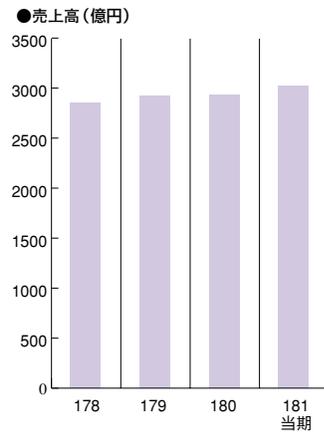
以上により、当事業の売上高は3,026億17百万円(前期比3.1%増加)、営業利益は141億83百万円(前期比35.3%増加)となりました。

■主要連結子会社

(株)ヤマハミュージック東京他販売会社10社
Yamaha Corporation of America
Yamaha Canada Music Ltd.
Yamaha Music Holding Europe G.m.b.H
Yamaha Music Central Europe G.m.b.H
Yamaha-Kemble Music (U.K.) Ltd.
Yamaha Musique France S.A.S.
P.T.Yamaha Music Manufacturing Asia
雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
天津雅馬哈電子楽器有限公司

■主要製品

ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、教育楽器、音響機器、防音室、音楽教室、英語教室、コンテンツ配信、調律



AV・IT事業

オーディオは、中高級アンプ、レシーバーが北米市場で売上げを伸ばしましたが、国内市場及び欧州市場では競争激化から減収となりました。情報通信機器は、企業向けルーターが引き続き堅調に推移し、売上げ増加となりました。事業全体としては、為替影響もあり、前期比微減となりました。損益は減益となりました。

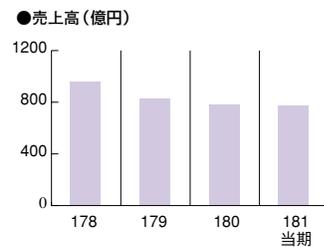
以上により、当事業の売上高は777億20百万円(前期比0.7%減少)、営業利益は36億51百万円(前期比17.4%減少)となりました。

■主要連結子会社

ヤマハエレクトロニクスマーケティング(株)
Yamaha Electronics Corporation, USA
Yamaha Elektronik Europa G.m.b.H
Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn.Bhd.
雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司

■主要製品

オーディオ、情報通信機器



リビング事業

期の前半において、主力のシステムバスとシステムキッチンが、低価格化する市場への対応遅れから大きく落ち込みました。期の後半で、新商品を投入し挽回を図りましたが、通期では売上げ減少となりました。

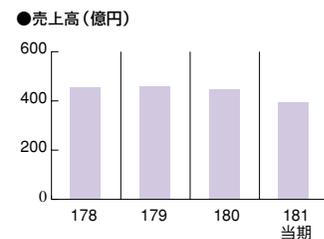
以上により、当事業の売上高は428億44百万円(前期比4.3%減少)、営業損失は24百万円(前期は営業利益14億62百万円)となりました。

■主要連結子会社

ヤマハリビングテック(株)

■主要製品

システムキッチン、システムバス
洗面化粧台、家具、住設部材



電子機器・電子金属事業

電子機器事業では、携帯電話用音源LSIが競争の激化による販売単価の低下により売上げ減少となりました。電子金属事業も売上げ減少となりました。

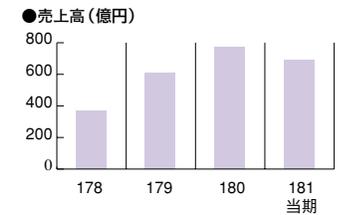
以上により、当事業の売上高は690億48百万円(前期比10.2%減少)、営業利益は199億70百万円(前期比33.5%減少)となりました。

■主要連結子会社

ヤマハ鹿児島セミコンダクタ(株)
ヤマハメタニクス(株)

■主要製品

半導体、特殊合金



レクリエーション事業

国内旅行市場の厳しい市況の中で、台風等の天候不順の影響とスキー客の落ち込みによる集客減少により、売上げ減少となりました。なお、経営効率を高めるため、平成16年7月1日に当社の子会社である株式会社キロロ開発公社を吸収合併いたしました。

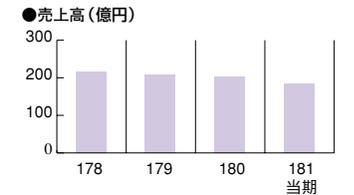
以上により、当事業の売上高は182億90百万円(前期比9.0%減少)、営業損失は22億53百万円(前期は営業損失11億10百万円)となりました。

■主要連結子会社

(株)キロロアソシエイツ他5社

■主要製品

観光施設・宿泊施設・スキー場
及びスポーツ施設の経営



その他の事業

ゴルフ事業は、市況の低迷から売上げ減少となりました。FA機器及び金型・部品事業は、携帯電話用マグネシウム部品が携帯電話メーカーの在庫調整により、売上げ減少となりました。また、自動車用内装部品事業も、モデルチェンジの端境期となったことから売上げ減少となりました。

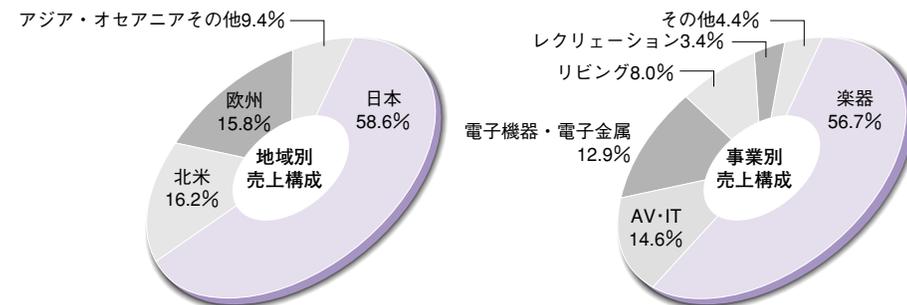
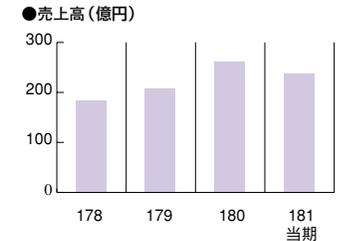
以上により、当事業の売上高は235億57百万円(前期比9.6%減少)、営業利益は1億68百万円(前期は営業損失2億11百万円)となりました。

■主要連結子会社

ヤマハファインテック(株)

■主要製品

ゴルフ用品、自動車用内装部品、FA機器、金型・部品



特集

“新しい感動が待っている”
ヤマハホームシアター

木々のざわめき、降りしきる雨、雑踏を行き交う人々。ヤマハのシネマDSPは、映画館やコンサートホールと一般家庭との再生環境の違いを解決し、映画館や音楽本来の感動をありのままに再現します。



ヤマハのホームシアタービジネス

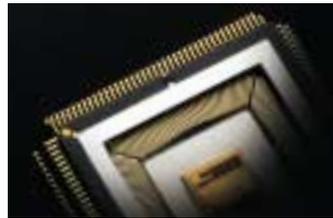
ヤマハは「家庭でも劇場の雰囲気味わえるホームシアター」をコンセプトにビジネスモデルを構築してきました。

ヤマハが所有するDSP技術、音場データ、独自のLSIなどのコア技術を活用して、他社との差別化を図り、ホームシアタービジネスを確立しています。



ヤマハの独自技術、シネマDSP

ヤマハは20年以上に亘り、世界中の著名なホールや劇場、ライブハウスなどの音響効果を実際に測定し、膨大な音場データを蓄積してきました。「シネマDSP」は実測データに基づき音響空間を再現する独自の技術です。



ヤマハの技術を凝縮したLSI

音場のノウハウやプロオーディオ技術が、自社でデザインしたLSIに余すことなく盛り込まれています。だからあらゆる音響空間の広がりや奥行きが本物のリアリティでご家庭で再現できるのです。



伝統のスピーカー技術が奏でるナチュラルな音色

定評のあるスピーカー技術により、迫力とキレがあるホームシアターサウンドを実現しました。また、独自技術を活用したサブウーハーは、身体に響く圧倒的な重低音で臨場感を驚くほど高めます。

今ホームシアターが注目されています

近年、薄型大画面TVやDVDメディアの普及、デジタル放送の開始により、高音質なサウンドが家庭で楽しめるホームシアターへの関心が高まっています。

ヤマハは、ホームシアター・ビギナーからマニア層まで、お客様の多様化するニーズに対応した商品を幅広く提供しています。



ホームシアターの魅力コンパクトに凝縮した入門シリーズ「シネマステーション S150」
いい音、カンタン、スタイリッシュ。シネマステーションはホームシアターを身近にします。



すべてに最高を求める本格派のホームシアター 「デジタルシアター 1500」
高音質と臨場感を追求したAVアンプと本格派シアタースピーカーによる理想のホームシアターです。

ヤマハは今後も新しいホームシアターエンターテインメントを提案してまいります。

ワンボディで、臨場感あふれるサウンドを実現
「ヤマハ・デジタル・サウンド・プロジェクター YSP-1」

省スペースでインテリアにも調和するホームシアターのご要望にお応えするため「YSP-1」を発売しました。YSP-1は42個のスピーカーをマウント。壁の反射を利用してサラウンド効果を実現します。

複数のスピーカーの設置やスピーカーケーブルの配線は必要ありません。ワンボディなので、スタイリッシュにリアル5.1サラウンドが楽しめます。

薄型テレビにぴったりフィット。
省スペースで、お部屋もすっきり。



うちには6個もスピーカーが置けないから…。そんなあなたに「YSP-1」。
ワンボディですから、お部屋もひろひろ。奥行き11.3cmのシンプルなデザインで、インテリアにも自然になじみます。



浜名湖花博にヤマハも 音楽イベントなどに協賛

浜名湖花博(しずおか国際園芸博覧会)が、2004年4月から10月までの187日間にわたって開催されました。入場者は約545万人に達し、大盛況のうちに終了しました。会期中は季節の花々が会場を彩り、毎日開催される趣向を凝らしたイベントが好評でした。ヤマハグループは、水辺の劇場や浜松産業館E~RA(イーラ)の音響設備を提供。また開会式でのコーラスグループ サカスのコンサートをはじめとする数多くの音楽イベントに協賛しました。

1000人収容できる水辺の劇場ではポップコン&ココキータンポコンコンサートをはじめ、ヤマハは数多くのイベントやコンサートに共催、協賛しました。



E~RA(イーラ)館の中央で上映されたファンタジックレビュー「ふしぎな「たね」のものがたり」では、ヤマハが音響を担当しました。



E~RA館のヤマハ展示スペースもご好評をいただきました。



会期中の土日祝日には地元の学校や警察、ヤマハ吹奏楽団などによるパレードが開催されました。



©のたね

応援します・2004年開催
浜名湖花博

大ヒット映画「スウィングガールズ」の制作に ヤマハが協力

昨年、映画「スウィングガールズ」が大きな反響を呼びました。女子高生達が、ジャズ演奏のため奮闘するストーリー。出演者はほとんどが、楽器は初心者でしたが、特訓を重ねて見事な演奏を披露しました。ヤマハは制作にあたり楽器提供と演奏指導に協力しました。この映画を契機に管楽器をはじめとする学生が増え、特に主人公が演奏するサクスの販売が増加しました。



© 2004 フジテレビジョン/アルタミラピクチャーズ/東宝/電通

ニューヨークに アーティスト対策のための 新会社YASIを設立

プロのピアニストや管楽器プレーヤーの楽器のサポートサービスを行う新会社として、YASI(ヤマハ・アーティスト・サービス・インク)を2004年5月に設立。ニューヨーク5番街にピアノサロンと管楽器の試奏室やカスタムショップをオープンしました。ここで得るアーティストの意見を今後の楽器開発に活用してまいります。



5番街に面したエリザベス・アーデン・ビルにサロンをオープン



音場制御システム完備したピアノサロンではグランドピアノCFⅢSが試弾できます。

クリプシュ社(米国)と業務提携、 スタインバーク社(独)を買収

ヤマハは2004年9月、米国国内のスピーカー売上げでトップシェアを誇るクリプシュ・オーディオ・テクノロジーズ社と業務提携しました。また2005年2月には、音楽制作用コンピューターソフトウェアの開発力や知的所有権を保有するスタインバーク社(独)の全株式を取得しました。これらの業務提携や企業買収により、ホームシアター市場や音楽制作市場での販売拡大を目指します。



ヤマハ I-サーアクセスVPNルーター

ヤマハルーターの累計販売台数が 100万台を突破

ヤマハは1995年にルーターの販売を開始。2004年11月に累計販売台数100万台を達成しました。信頼性に優れたコストパフォーマンスの高い製品は、SOHO・中小企業ネットワーク向けを中心に、高い評価を得ています。今後は光ファイバーを想定したネットワークソリューションによりビジネスの展開を図ります。

中国での楽器の生産拠点、杭州ヤマハが開業

杭州雅馬哈楽器有限公司(杭州ヤマハ)の開業式が2004年11月に盛大にとり行われました。浙江省の友好提携先である静岡県石川知事や中国政府代表をはじめ多くの来賓が参加されました。杭州は上海の南に位置し、多くの外資系企業が進出する交通の要衝の地。杭州ヤマハは当社の世界戦略を担う新工場としてピアノとギターを生産し、中国国内に出荷します。



音を奏でるインテリア

新しいクラビノーバCLP-F01

新しいクラビノーバはスリムなインテリア性の高さと、ピアノの存在感をあわせ備えた、新しいコンセプトの電子ピアノです。ピアノの鍵盤部分をそのまま再現し、背面は壁面にピタッと収まるフラットパネル。パネルの色は4色から選べます。



インターネットダイレクトコネクション機能を装備したクラビノーバが登場

昨年発売されたCVPシリーズはインターネットに直接接続して弾きたい曲のデータを読み込むことができます。楽譜が液晶に表示されるので、すぐに練習を始めることができます。また、カラオケ用データやBGM演奏用データも利用できるので、さらに楽しさが広がります。

Clavinova
CLP-F01

写真はポリッシュオレンジ(右)とポリッシュブルー(上)
CLP-F01 451,500円



CVP-309PM 661,500円



ディスクラビア「マークIV」シリーズが米国で人気を集めています

ヤマハ「ディスクラビア」は演奏を手軽に録音できます。再生時には、鍵盤が自動で動き、演奏者の微妙なニュアンスまで忠実に再現します。優れたデジタル技術による高度の演奏再現性や、数々のエンターテインメント機能が好評で、売上げを大きく伸ばしました。



DC3M4T \$64,995

ヤマハのピアノ技術を結集 最上級のアップライトピアノ「SU7」



基本設計から取り組み10年をかけて開発した「SU7」。響板や弦にはコンサートグランドピアノと同じ素材を使用した、最高級の音質のアップライトピアノです。音にこだわるピアニストやピアノ愛好家にお勧めできる最上級の品質を実現しました。

SU7 2,100,000円

ヤマハの製造技術の粋をあつめたバイオリン「Artida」YNV200G/S

ストラディバリウスやガルネリ・デル・シエス、伝統の名器をベースに、高品質の音色を実現するヤマハバイオリン「アルティータ」。名器のフォルムをコンピュータ制御の切削技術で再現、組立や塗装にはヤマハの技術を結集。さらに、経年変化を与えるシーズニング効果により熟成した音質を実現しました。

YNV200G 945,000円



歌って演奏できる、今日から誰でも名トランペッター

トランペットが簡単に演奏できる、それが「イージートランペット」。難しい唇の操作は必要ありません。声を吹き込めば音程と音量を感知し、トランペットの音を出力します。実際にバルブを押さえて演奏もでき、内蔵されている曲を利用して「ひとりカラオケ」も楽しめます。ユニークな機能が好評で、発売と同時に品切れとなる人気でした。



EZ-TP オープン価格

ヤマハ システムキッチン

New「ドルチェ」シリーズと新シリーズ「ベリー」を発売

ヤマハリビングテック(株)は耐久性に優れ高級感のある人造大理石を用いたキッチンを、ライフスタイルに合わせた形でご提案をしています。今回の新商品は、ヤマハ独自のサイクロンフードやマーブルシンクにより、汚れにくくお掃除が簡単なキッチンとなりました。



ヤマハの人気シリーズ「ドルチェ」



新登場、お求めやすい価格の「ベリー」シリーズ

1人で落ち着けるスペースを提案する
新アビテックス『マイルーム』誕生

『マイルーム』は、リフォームなしで、プライベートスペースを提供します。周囲の音と遮断され、天然木の落ち着いた内装の空間のなかで、ゆったりとパソコンやDVDなどが楽しめます。

MRA35D 627,900円



さらなる飛距離と打ちやすさを両立した
ヤマハゴルフクラブ「インプレス」

飛距離を決定づけるのは初速である。初速を上げていけば確実に飛ぶ。それには反発係数を上げることが何よりも有効です。この理論に基づき、最先端技術で開発された高反発クラブがインプレスです。「05 inpres」は反発係数0.875 OVERという極限の数値を実現しました。



高反発の極致へ。シンクロソール構造。
Synchro Sole '05 Driver

はいむるぶしに

「ラグジュアリーオーシャンヴィラ」がオープン

「はいむるぶし」は沖縄本島からさらに南へ440Km、西表国立公園の小浜島にあります。どこまでも続くような青い珊瑚礁の海に抱かれ、



ゆったりと南国情緒を堪能できるファーストクラスのリゾート。その「はいむるぶし」に「ラグジュアリーオーシャンヴィラ」が完成しました。



オーシャンビューが楽しめる「ラグジュアリーオーシャンヴィラ」(20室)の客室は床面積60㎡の広いスペース。大型画面テレビやホームシアター、洗練された家具や調度品が配された贅沢な仕様です。



新設の「プールサイドレストラン」は、全面ガラス張りなので素晴らしい景観の中でお食事ができます。

合歓の郷がレストラン棟や露天風呂を増設、
「ヴィラ合歓の郷」もリニューアルオープン



天然温泉「潮騒の湯」(加水なし)を引き込んだ大浴場に、露天風呂を増設。

合歓の郷では中部国際空港セントレアの開港に伴い海外からのお客様の増加が予想されるなか、ホテル「エクシード合歓の郷」に伊勢志摩の豊饒な食材による新鮮ビュッフェ料理が楽しめる新レストラン棟と館内大浴場に露天風呂を増設しました。さらに英虞湾を望む丘の上に佇む「ヴィラ合歓の郷」を全面リニューアルするなど、さらに快適で上質なリゾートライフを満喫できる施設に生まれ変わりました。

雄大な英虞湾が眺望できる「合歓の郷ゴルフクラブ」は、全18ホールをバント芝に張り替えリニューアルしました。



木立と芝生に囲まれた別荘感覚の「ヴィラ合歓の郷」が、さらに上質なくつろぎ空間へとリニューアルされました。



連結財務諸表

● 連結貸借対照表の要旨

| 科目 | 181期(当期) '05年3月 | 180期 '04年3月 |
|-------------|--------------------|----------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 225,581 | 201,704 |
| 現金及び預金 | 51,205 | 32,053 |
| 受取手形および売掛金 | 73,688 | 81,114 |
| 棚卸資産 | 78,434 | 72,146 |
| 繰延税金資産 | 16,495 | 12,291 |
| その他 | 7,870 | 6,487 |
| 貸倒引当金 | △2,114 | △2,389 |
| 固定資産 | 279,996 | 307,026 |
| 有形固定資産 | 146,428 | 178,667 |
| 償却資産 | 80,978 | 100,326 |
| 土地 | 64,050 | 75,362 |
| その他 | 1,399 | 2,978 |
| 無形固定資産 | 1,026 | 944 |
| 投資その他の資産 | 132,541 | 127,415 |
| 投資有価証券 | 101,015 | 101,017 |
| 繰延税金資産 | 17,425 | 17,379 |
| その他 | 15,265 | 10,102 |
| 貸倒引当金 | △1,165 | △1,083 |
| 資産合計 | 505,577 | 508,731 |

単位:百万円

| 科目 | 181期(当期) '05年3月 | 180期 '04年3月 |
|-----------------|--------------------|----------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 145,820 | 123,596 |
| 支払手形及び買掛金 | 37,686 | 39,947 |
| 短期借入金 | 17,825 | 16,711 |
| 一年以内返済の長期借入金 | 22,259 | 7,388 |
| 未払費用及び未払金 | 45,167 | 45,888 |
| 未払法人税等 | 12,603 | 2,492 |
| 諸引当金 | 3,411 | 3,065 |
| その他 | 6,867 | 8,101 |
| 固定負債 | 80,722 | 121,891 |
| 長期借入金 | 6,514 | 24,772 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 14,346 | 13,569 |
| 退職給付引当金 | 28,269 | 50,012 |
| 長期預り金 | 28,917 | 30,799 |
| その他 | 2,673 | 2,738 |
| 負債合計 | 226,542 | 245,488 |
| 少数株主持分 | | |
| 少数株主持分 | 3,834 | 3,511 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 28,534 | 28,534 |
| 資本剰余金 | 40,054 | 40,054 |
| 利益剰余金 | 212,340 | 203,485 |
| 土地再評価差額金 | 22,453 | 15,866 |
| その他有価証券評価差額金 | 7,364 | 10,979 |
| 為替換算調整勘定 | △35,267 | △38,937 |
| 自己株式 | △279 | △252 |
| 資本合計 | 275,200 | 259,731 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 505,577 | 508,731 |

● 連結損益計算書の要旨

単位:百万円

| 科目 | 181期(当期) '04年4月~'05年3月 | 180期 '03年4月~'04年3月 |
|--------------|---------------------------|-----------------------|
| 売上高 | 534,079 | 539,506 |
| 売上原価 | 335,705 | 338,057 |
| 延払未実現利益 | 221 | 244 |
| 販売費及び一般管理費 | 162,899 | 156,637 |
| 営業利益 | 35,695 | 45,056 |
| 営業外収益 | 12,155 | 12,841 |
| 営業外費用 | 6,548 | 6,861 |
| 経常利益 | 41,302 | 51,036 |
| 特別利益 | 27,391 | 613 |
| 特別損失 | 35,178 | 4,193 |
| 税金等調整前当期純利益 | 33,516 | 47,456 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 14,497 | 4,769 |
| 法人税等調整額 | △1,088 | △1,387 |
| 少数株主利益 | 409 | 532 |
| 当期純利益 | 19,697 | 43,541 |

● 連結剰余金計算書の要旨

単位:百万円

| 科目 | 181期(当期) '04年4月~'05年3月 | 180期 '03年4月~'04年3月 |
|------------------|---------------------------|-----------------------|
| (資本剰余金の部) | | |
| 資本剰余金期首残高 | 40,054 | 40,052 |
| 資本剰余金増加高 | | 1 |
| 資本剰余金期末残高 | 40,054 | 40,054 |
| (利益剰余金の部) | | |
| 利益剰余金期首残高 | 203,485 | 162,344 |
| 利益剰余金増加高 | 19,886 | 44,721 |
| 利益剰余金減少高 | 11,031 | 3,579 |
| 利益剰余金期末残高 | 212,340 | 203,485 |

● 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位:百万円

| 科目 | 181期(当期) '04年4月~'05年3月 | 180期 '03年4月~'04年3月 |
|-----------------------------|---------------------------|-----------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 39,588 | 58,349 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △12,896 | △18,775 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △8,306 | △50,141 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 1,099 | △1,599 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 19,485 | △12,167 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 31,245 | 42,976 |
| 新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高 | — | 1,150 |
| 除外連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高 | △337 | △127 |
| 連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 | — | △587 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 50,393 | 31,245 |

単独財務諸表

● 単独貸借対照表の要旨

| 科目 | 181期(当期) | 180期 |
|----------|----------|---------|
| | '05年3月 | '04年3月 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 104,118 | 86,637 |
| 当座資産 | 63,800 | 52,414 |
| 棚卸資産 | 26,396 | 23,531 |
| その他 | 13,921 | 10,691 |
| 固定資産 | 213,952 | 250,392 |
| 有形固定資産 | 90,955 | 117,538 |
| 無形固定資産 | 103 | 103 |
| 投資その他の資産 | 122,894 | 132,750 |
| 資産合計 | 318,071 | 337,029 |

● 単独損益計算書の要旨

| 科目 | 181期(当期) | 180期 |
|--------------|---------------|---------------|
| | '04年4月~'05年3月 | '03年4月~'04年3月 |
| 売上高 | 341,546 | 345,354 |
| 売上原価 | 247,455 | 248,139 |
| 延払未実現利益 | 218 | 241 |
| 販売費及び一般管理費 | 71,670 | 70,500 |
| 営業利益 | 22,638 | 26,954 |
| 営業外収益 | 3,079 | 2,382 |
| 営業外費用 | 573 | 1,218 |
| 経常利益 | 25,145 | 28,118 |
| 特別利益 | 23,973 | 371 |
| 特別損失 | 36,094 | 4,047 |
| 税引前当期純利益 | 13,024 | 24,443 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 9,651 | 100 |
| 法人税等調整額 | 3,108 | △1,236 |
| 当期純利益 | 264 | 25,579 |
| 前期繰越利益 | 3,774 | 4,421 |
| 土地再評価差額金取崩額 | △10,607 | △1,221 |
| 中間配当額 | 1,547 | 1,031 |
| 当期末処分利益 | △8,116 | 27,747 |

単位:百万円

| 科目 | 181期(当期) | 180期 |
|--------------|----------|---------|
| | '05年3月 | '04年3月 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 79,877 | 54,464 |
| 固定負債 | 65,402 | 102,582 |
| 負債合計 | 145,279 | 157,046 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 28,534 | 28,534 |
| 資本剰余金 | 40,054 | 40,054 |
| 利益剰余金 | 83,255 | 97,329 |
| 土地再評価差額金 | 14,255 | 3,648 |
| その他有価証券評価差額金 | 6,926 | 10,622 |
| 自己株式 | △235 | △207 |
| 資本合計 | 172,791 | 179,982 |
| 負債及び資本合計 | 318,071 | 337,029 |

● 利益処分

単位:百万円

| 科目 | 181期(当期) |
|-------------------|---------------|
| | '04年4月~'05年3月 |
| 当期末処理損失 | △8,116 |
| 圧縮記帳積立金取崩高 | 236 |
| 別途積立金取崩高 | 16,000 |
| 合計 | 8,119 |
| これを次の通り処分する。 | |
| 利益配当金(1株につき12.5円) | 2,579 |
| 役員賞与金 | 100 |
| (うち監査役賞与金) | (15) |
| 特別償却準備金積立高 | 11 |
| 圧縮記帳積立金 | 68 |
| 買換資産取得特別勘定積立金 | 565 |
| 次期繰越利益 | 4,796 |

(注)平成16年12月10日に、1,547百万円(1株につき7円50銭)の中間配当を実施しました。

株式の状況

● 会社が発行する株式の総数 700,000,000株

● 発行済株式総数 206,524,626株

● 株主数 19,890名

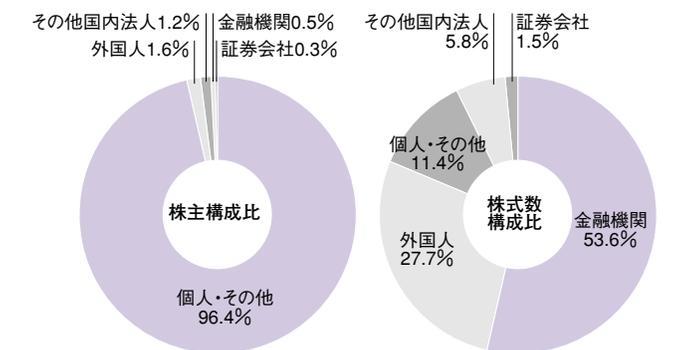
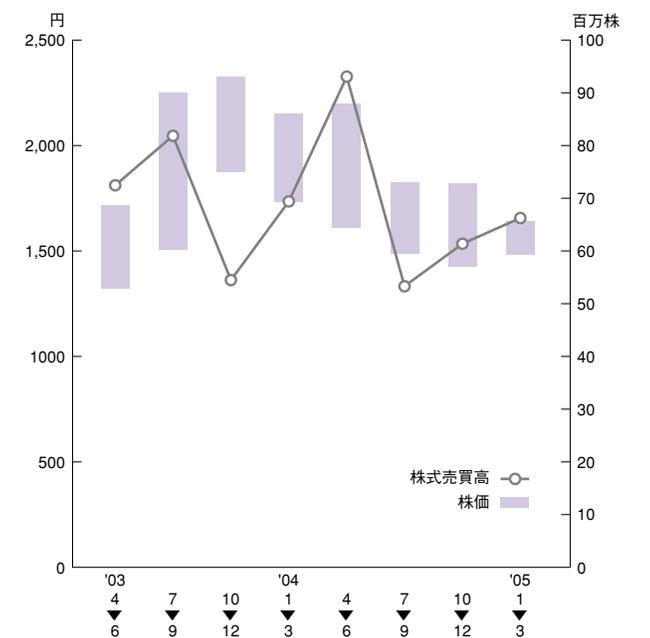
● 株主分布状況

| 株主構成 | 株主数 | 株式数 |
|---------|---------|----------|
| 個人・その他 | 19,179名 | 23,478千株 |
| 金融機関 | 104 | 110,718 |
| その他国内法人 | 236 | 11,952 |
| 外国人 | 320 | 57,260 |
| 証券会社 | 51 | 3,114 |

● 大株主の状況

| 株主名 | 所有株式数 | 持株比率 |
|---------------------------------------|-------------|-------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 20,476,500株 | 9.91% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 11,992,400 | 5.81 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 8,918,925 | 4.32 |
| みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託 | 8,779,990 | 4.25 |
| 株式会社静岡銀行 | 8,349,855 | 4.04 |
| 住友生命保険相互会社 | 7,300,000 | 3.53 |
| 日本生命保険相互会社 | 6,482,252 | 3.14 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 5,775,404 | 2.80 |
| 株式会社三井住友銀行 | 5,202,404 | 2.52 |
| 日本土地建物株式会社 | 3,382,000 | 1.64 |

● 株価および株式売買高の推移 (東京証券取引所)



(2005年3月31日現在)

会社の概要

| | |
|--------|-------------------------------|
| ● 商号 | ヤマハ株式会社 YAMAHA CORPORATION |
| ● 本店 | 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号 |
| ● 設立 | 1897年10月12日(創業1887年) |
| ● 資本金 | 28,534,856,685円 |
| ● 従業員数 | 18,574人(連結) 5,798人(単独) |

※いずれも臨時従業員を含んでおりません。(2005年3月31日現在)

役員

| | | |
|---------|---------|---------|
| ● 取締役 | 代表取締役会長 | 岸 田 勝 彦 |
| | 代表取締役社長 | 伊 藤 修 二 |
| | 常務取締役 | 前 嶋 邦 啓 |
| | | 加 藤 博 万 |
| | 取締役 | 長 谷 川 至 |
| | | 花 本 眞 也 |
| | | 黒 江 常 夫 |
| | | 牧 野 時 久 |
| ● 監査役 | 常勤監査役 | 太 田 直 幹 |
| | | 堀 越 美知夫 |
| | 監査役 | 三 浦 州 夫 |
| | | 和久田 晴比古 |
| ● 執行役員 | 上席執行役員 | 梅 村 充 |
| | 執行役員 | 篤 田 勝 宏 |
| | | 林 田 甫 |
| | | 戸 部 儀 和 |
| | | 高 橋 源 樹 |
| | | 関 口 博 |
| | | 田 丸 卓 也 |
| | | 加 茂 幸 助 |
| | | 新 美 幸 二 |
| | | 岡 部 比呂男 |
| 吉 良 康 宏 | | |
| | | 八 幡 泰 司 |

(2005年3月31日現在)

株主メモ Shareholders Information

| | |
|-----------------------------|---|
| ● 決算期 | 3月31日 |
| ● 基準日 | 3月31日(その他必要があるときは、 予め公告いたします) |
| ● 定時株主総会 | 6月 |
| ● 利益配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| ● 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| ● 1単元の株式数 | 100株 |
| ● 公告掲載新聞 | 東京都において発行する日本経済新聞 |
| ● 貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス | http://www.yamaha.co.jp/ir/kessan/index.html |
| ● 名義書換代理人 | 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 |
| ● 同事務取扱場所 | 〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部 Tel:052-262-1520 |

● 同取次所
中央三井信託銀行株式会社本店及び全国各支店、
日本証券代行株式会社本店及び全国各支店

● その他
株式の名義書換、単元未満株式の買取請求、配当金のお支払い及び諸届等のお問合せは、上記名義書換代理人の事務取扱場所並びに同取次所でお取扱いいたします。
なお、「証券保管振替機構」に預託されました株券についての諸届及び手続等に関するお問合せは、お取引先の証券会社へお願いいたします。
住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号
Tel: 053(460)2800
Fax: 053(460)2802
URL: <http://www.yamaha.co.jp/>



この事業報告書は再生紙に大豆インキで印刷しました。